



● #後戻りさせない！ 新型コロナウイルス後により良い未来を築くために

ユニセフ（国際児童基金）東アジア・太平洋地域事務局は、8月18日、報告書「Recover, Rebound, Reimagine、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症危機後の東アジア・太平洋地域のすべての子どものためのより良い未来を築く」を発表しました。

報告書は、食料を得ることや子どもに教育を受けさせることに以前から苦労している、この地域で暮らす貧困世帯の22億人が、COVID-19の影響でさらなる困難に陥っていることを強調しています。

私たちが知っているように、世界は変わりました。ほんの数カ月の間に、COVID-19は驚くべき速さで世界中に広がり、すべての大陸、すべての国が影響を受けています。そして、子どもたちは、最も深刻な影響を受けています。

ユニセフとそのパートナーは、当初から全力でこの危機に対応してきました。緊急支援と保護を最も必要としている子どもたちに手を差し伸べるだけでなく、COVID-19後の世界での子どもたちの学習と発達を守るために、新しい考え方や戦略を、政府や他のパートナーとともに推し進めています。

Recover, Rebound, Reimagine

子どもたちにとって、より良い未来とは、どのようなものになるのでしょうか。

この地域のCOVID-19への対応は、Recover, Rebound, Reimagineという3つの重要なテーマのもとで取り組まれます。

●Recover（取り戻す）

必要不可欠なサービスの提供を回復し、成功した介入策を拡大する。特に、基礎疾患があるためにウイルスに感染しやすくなっている子どもたちを支援する。

●Rebound（回復し向上する）

子どもたちの回復力を育み、最も弱い立場にある人々を保護する。例えば、この地域の各国政府が家族への現金給付の支給を確保し、新たに貧困に陥った人々を含め支援を受けられる人の数を増やすよう支援する。

●Reimagine（再創造する）

より公平で包括的、かつ回復力のある社会を実現し、近い将来の災害にも対応できるようにするために、実験的なマインドセットを用いて課題に取り組む。

より良い世界を再創造する

私たちの多くがロックダウン（都市封鎖）の状態から脱しても、簡単に「昔と同じ元の状態（オールド・ノーマル）に戻る」ことはないだろうと思っています。私たちは昔と同じ元の状態に戻るべきではありませんし、戻らないでしょう。後戻りではなく、よりよい世界をつくっていかなくてはなりません。

報告書ではいくつかの行動を呼びかけています。例えば、社会的規範としての手洗いの実践を拡大して浸透させること、子どもとその家族のための栄養価が高く、安全で持続可能な食生活を促進すること、そして、COVID-19後の世界において、若者がより健康的で持続可能な食生活を選択できるようにすることなどです。

私たちはいま、子どもたちのためにより良い世界を再創造する、一生に一度の機会を手に入れているのです。

一緒に行動しましょう。「#後戻りさせない」ために。



© UNICEF/UNI358499/Brown

将来は先生になりたいと話す10歳のチョンプーさん。

母親は入院中で医療費を賄うために、祖母が毎朝6時から路上で食べ物を売って生活を支えている。（タイ、2020年8月10日撮影）

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、山口県ユニセフ協会は、対面による募金活動・広報活動を自粛していますが、防府市国府中学校・山口市大内中学校のご協力により、ユニセフパネル展を開催できました。また生徒の皆さんからたくさんの感想も寄せていただきました。ほんの一部ですが紹介させていただきます。

●生徒の皆さんから寄せていただいた感想

僕はユニセフの表をみて、5歳未満の死亡率をみて、日本は5歳未満で亡くなっている人が少ないけど、アフリカ大陸などを見ると、すごく多いことにびっくりしました。世界には、小学校などに行けない子どもが約6100万人いることがわかりました。世界の3億8500万人も貧困下で暮らしているかわいそうだと思います。

数円の募金で、みんなを救える、いろんな物が支援されることが分かったので、僕も協力してみたいなと思いました。みんなが同じようにすごせたらいいなと思いました。

【一年生・男子】



■防府市国府中学校では、ゆったりとパネルを見ていただけるコミュニティールームを利用させていただきました。

僕はユニセフパネル展を見て思ったことは2つあります。1つ目は様々な活動を行っていることです。僕が元々知っていたのは、困っている人にお金を渡していることぐらいだけれど、本当は現地に直接行って水の管理をしたり、子どもたちに教育をしたりと、僕が思っている以上に色々な活動をしていてびっくりしました。

今日本はほとんどのところが元気に生活できています。でも世界に目を向けてみると貧困や干ばつや紛争など、子どもの成長を妨害する問題がたくさんあります。

その現実をこのユニセフパネル展を見てあらためて知ることができました。

【一年生・男子】

まずこのパンフレットを見て、「5歳未満児死亡率世界地図」をみてみました。これを見て南アフリカ大陸の死亡率が非常に高いことを知りました。

ですが、ユニセフの活動によって手洗いの習慣や栄養についてなどを指導しているユニセフはすごいと思います。

次にこの下にある「持続可能な開発目標」について目を向けました。これは「Sustainable Development Goals」通称SDGsといわれ、計17個の目標と169のターゲットでつくられていることを知りました。

僕は去年、SDGsの講習に参加したことがあり、もっと知りたいと思っていたので見れて良かったです。

そして僕が最も印象深く感じたのは、「ユニセフにご協力をいただく方法」という項目です。特に募金についてみて、とても驚きました。

自分の100円で15袋の経口補水塩を買えたり、500円で浄水剤1250錠を入手できます。こんなことでみんなの支援になれるのがすごいなと思いました。僕もユニセフで募金に少しでも多く入れて、貧しい人に少しでも助けになったらいいなと思います。

【二年生・男子】



私はユニセフパネル展やパンフレットを見て、ユニセフについてまだまだ知らないことがたくさんありました。ユニセフは1946年からあり、日本もユニセフに助けられていたことがあることに驚きました。

日本がユニセフに助けられていたのは、第二次世界大戦後で、今は協力する方なので、全然想像がつかないと思いました。

5歳未満児死亡率が多いところがアフリカや南アジアに多いことが分かりました。今回ユニセフのことに
ついて知れて良かったです。まだまだユニセフが必要な国はたくさんあるので、募金などがあるときは、
すすんで募金できるようにしたいです。
【三年生・女子】

他の国の人達と日本の暮らし、環境の違いの大きさに複雑な気持ちになり、「世界にはこの他の国の人達のような方が多いけれど、私は今のままでいいのだろうか?」とも思った。「あれがほしい」「これがほしい」私の周りにはなに不自由ない環境。好きなものをいつでも食べられる当たり前、友達がいて、学校に行ける。私は初めて「普通」が他の国からみたら「幸せ」なことなんだと感じた。

私はユニセフの募金はしたことがある。フェアトレードの食べ物も。ユニセフはコミュニティと協力して実施している団体。私は、自分の行動一つで誰かが救われる、小さいことでもいい、その小さいことがちょっとずつ大きくなって、一人でも多く他の国の人々が幸せになる。それを考えると私も幸せな気持ちになった。

【三年生・女子】



■山口市大内中学校では各学年が別棟となっているため、全学年の生徒さんが利用する保健室前の廊下に展示場所を用意していただきました。

私は今までにユニセフの募金活動に参加したことが何度かあります。しかし、その当時は世界の貧しい方々のために募金をしているというだけで、そのお金がどのように活用されているかなど具体的な事は知りませんでした。そして今回改めてユニセフについて学び、世界にはきれいな水も飲めず、5歳になるまでに命を落としてしまう人がたくさんいることを知りました。

私が置かれている立場がどんなに恵まれていて、どんなに幸せなことが改めて感じることができました。しかし、私が生活している中で貧しい国の人と直接関わったり、実際に目にする事は出来ません。なので、恵まれた環境で生まれた私は、世界中の私たちの当たり前が当たり前でない人がいることを忘れてしまっていることが多いです。だからもっと世界中の苦しんでいる人や辛い思いをしている人に目を向けていかないといけないなと思いました。自分が入れた少しのお金が、遠く離れた異国の貧困に苦しんでいる人を少しずつ、少しずつ救っていけるという事を考えるとすごく不思議な気持ちになります。

そして私の身近にある募金箱のお金がワクチンや食べ物に変わって人を助けていると思うと、ユニセフを通して世界中のみんなが1つになっている気がしてとても嬉しかったです。

私は今回初めて戦後日本もユニセフに支援してもらっていたことを知りました。だからこそ私も誰かを助けたいと思ったし、互いが互いを助け合えるような世の中であって欲しいし、そしてそのような世の中にしていきたいと思いました。

【三年生・女子】

●「ユニセフパネル展」を開催してみませんか?!

山口県ユニセフ協会では、**ユニセフ**のこと、**世界の子どもたち**のこと、を知っていただきたい。そしてそのことを通じて**平和**や**しあわせ**を考えていただきたいと、**パネル展**を積極的に開催しています。

展示場所さえお貸しいただければ、設営等はボランティアスタッフがおこないます。

■ご連絡・お申込みは、4ページに記載の電話またはメールにてお願いします。

●パネル・視聴覚ツール



- *パネルはスペースやテーマに応じて、複数ご用意できます。
- *視聴覚ツールとしてDVDも各種ありますので、お申し出いただければ貸し出しもおこないます。

●その他ツール



- *マラリアを媒介する蚊を防ぐためにユニセフが提供している蚊帳や、ネパールで衛生的な水の確保のために使われている水瓶（児童労働にもつながら）などの現品も貸し出しできます。

- 現在、全国的に感染が拡大している新型コロナウイルス感染防止の観点から、対面による募金活動・広報活動を自粛していますが、感染防止対策を徹底すれば、ソーシャルディスタンスが確保できるパネル展から活動を再開することとしました。お近くにお住まいの方、お買い物ついでにお立ち寄りいただくと幸いです。

●ユニセフパネル展①

「もったいないばあさんのワールドレポート展」～入場無料～

地球で起きている問題と私たちのくらしとのつながりを伝えるパネル展で詳しくは→<http://marikoshinju.com/content/worldreport/> をご覧ください。

- ★開催場所：宇部市図書館
- ★開催月日：10月27日（火）～10月31日（土）



熱のある方は来場をご遠慮ください。
ご来場の際はマスク着用をお願いします。

●ユニセフパネル展②

「ユニセフってなあに？」～入場無料～

世界の子どもの状況と、世界中の子どもの命と健康を守る活動を続けるユニセフをわかりやすく紹介するパネル展です。

- ★開催場所：フジグラン宇部
- ★開催月日：10月22日（木）～10月25日（日）

What is unicef?

～日本ユニセフ協会からのご案内～

親子で学べるSDGsの学習サイトがオープンしました！

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。国だけでなく、企業や個人一人ひとりの参加が求められています。このSDGsをわかりやすく学べるサイトをオープンしました。是非ご覧いただき、私たちにできることを一緒に考えましょう！

持続可能な世界への第一歩

SDGs CLUB

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

賛助会員募集してます！

日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助会費によって支援いただく方法です。現在山口県でも多くの賛助会員の方にご協力いただいています。

山口から世界の子どもたちを支えましょう！

種類	対象	賛助会費
一般賛助会員	個人	一口 5,000円
学生賛助会員	学生(18歳以上)	一口 2,000円
団体賛助会員	団体、法人、企業	一口 100,000円

賛助会員期間は、入会日より1年間です。賛助会費は寄付金控除の対象になります。一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限らせていただきます。

いつでもボランティア大歓迎！！

ユニセフや世界の子どもたちに関心のある方はもちろんあなたの好きなことをユニセフ活動にいかしてみませんか？

- ♪ 絵や文章を書くのが好きな方
- ♪ 子どもが好きな方
- ♪ 手作りするのが好きな方
- ♪ パソコンが得意な方
- ♪ 学習会の組み立てを一緒に考えてくれる方 などなど



山口県ユニセフ協会

〒753-0083
山口市後河原210番地
TEL083-902-2266
FAX083-928-5416
E-mail: info@unicef-yamaguchi.jp
URL: <https://www.unicef-yamaguchi.jp>

県協会地図



ボランティア登録、資料請求、その他お問い合わせ等は、事務局までご連絡ください。また、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。
受付日：月・火・水・木・金
受付時間：10:00～16:00
山口県教育会館の裏になります。